

第2回アジア慢性期医療学会 開催報告

『アジア慢性期医療協会』設立

去る、6月23日(木)・24日(金)韓国の釜山(会場: BEXCO)において「第2回アジア慢性期医療学会」を開催いたしました。

シルバーエキスポ(博覧会)との同時開催で行われ、9カ国から710人が集う学会となりました。「日本の慢性期医療の現状と未来」と題した特別講演を行い、シンポジウムは活発な意見交換、演題発表では現場からの報告など、慢性期医療の質の向上を目指し研鑽を積む機会となりました。

今学会で、日本慢性期医療協会と大韓老人医療福祉複合体協会の合意により『アジア慢性期医療協会』が設立され、今後はアジア各国とも合意し慢性期医療の発展に努めて参ります。

日本慢性期医療協会

会 長 武久洋三

国際委員長 中村哲也

【第2回アジア慢性期医療学会・開催概要】

- * 記念講演 Lee Kyu-sik (Yonsei University, Korea)
- * 招待講演 Won Young CHOI (Ministry of Health and Welfare, Korea)
- * 招待講演 Deok Jin KIM (Heeyeon Medical Foundation, Korea)
- * 特別講演 中村哲也(アジア慢性期医療協会理事長・日本慢性期医療協会国際委員長)
- * シンポジウム 13題
- * 一般発表 42題
- * ポスター 28題
- * 参加者 710人
- * 参加国・・・韓国、日本、中国、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、スロバキア、エジプト 計9カ国



【アジア慢性期医療協会・概要】

目的

本協会は、高齢社会を迎えるアジア諸国と協力し、先進的な慢性期医療に関する各国の現状把握、情報収集・分析、研究活動・成果発表等を行うための国際的な枠組みを構築し、当該国の国民が先進的な慢性期医療を享受し、広く国民一人ひとりの生活の満足度向上に資すること。

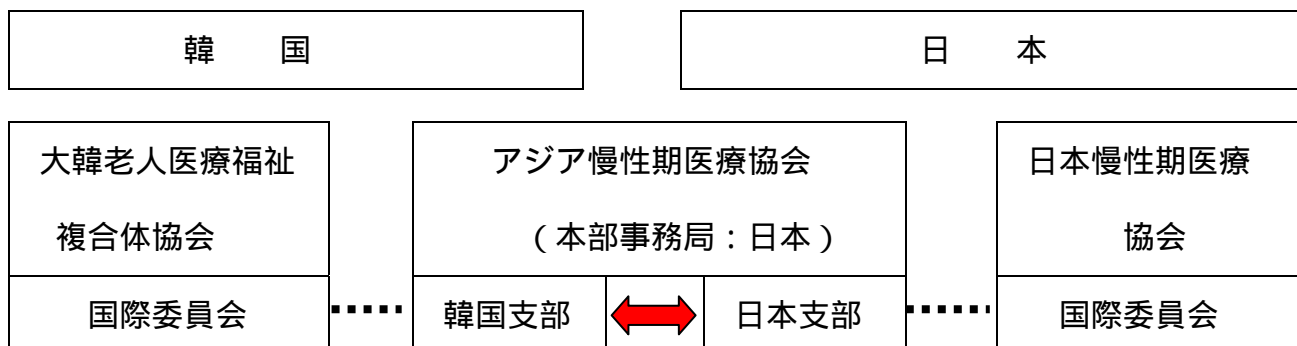
事業

- (1) アジア諸国の慢性期医療に関する関連機関との交流に関する事業
- (2) アジア慢性期医療学会の開催、運営又は運営の支援に関する事業
- (3) アジア諸国との恒常的な情報交換ができる枠組みの構築に関する事業
- (4) 加盟国での支部の設立及び運営の支援
- (5) 加盟国の慢性期医療の向上・発展に資する支援事業
- (6) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

理事

- (日本) 理事長 中村哲也 (日本慢性期医療協会国際委員長・板橋中央総合病院理事長)
理事 武久洋三 (日本慢性期医療協会会長・博愛記念病院理事長)
理事 安藤高朗 (日本慢性期医療協会副会長・永生病院理事長)
理事 富家隆樹 (日本慢性期医療協会常任理事・富家病院理事長)
- (韓国) 副理事長 キム ドクジン (大韓老人医療福祉複合体協会 会長)
理事 ソン ドクヒョン (大韓老人医療福祉複合体協会 理事)
理事 コ ソクボム (大韓老人医療福祉複合体協会 理事)

概念図



各国の協会もしくは団体の国際委員会がアジア慢性期医療協会の連絡窓口となる。

現在、慢性期医療協会となる団体が存在するのが日本と韓国なので、この両国で設立することになりました。